

問題が配られたら最初に全体をシミュレーションすべし/できる人の勉強法

最初にシミュレーション、次に問題の点検をしよう

問題用紙が配られたら、時計を見ながら、最初の10秒くらいで、「1番は5分、2番は10分……」という具合に、全体の流れを頭の中でシミュレーションしましょう。これにより、段取りよく試験を解いていくことができます。

シミュレーションが終わったら、すぐに問題全体をざっと見て、例年の試験問題と大きな変更がないかをチェックします。というのも、問題を解いている途中で大きな変更点に気づくと、動揺してしまうからです。この動揺というのが、一発勝負の試験の中では、かなりの時間のロス。そうした事態を回避するうえでも、この作業は重要です。変更点があった場合には、ざっくりと時間配分を見直しましょう。

「知識問題を先に。思考問題をあとに」が原則

問題を解く順番は、「知識問題」が先で、「思考問題」があとです。「知識問題」とは、考えずとも記憶で解ける問題、「思考問題」とは考えなければ解けない問題です。

まず知識問題を急いで仕上げ、残った時間を思考問題のためにフルに使うのが、制限時間を最大化し、最もいい結果を出すためのコツです。

一番避けたいのが、思考問題と知識問題をゴチャ混ぜに解き、最後に時間が余ってしまうケースです。中途半端に時間が余っても知識問題の見直しぐらいしかできません。そんな時間があるならば、思考問題にたっぷりの時間をかけたほうがずっと全体の点数を上げていくことができます。

設問を先に読んでから本文を読んで、出題者の意図をつかむ

英語や国語の長文読解では、最初に設問を読み、「何を聞いているのか？」という出題者の意図を押さえます。長文を読む前に、出題者が何を聞きたいのかをしっかりと押さえておくと、実際に文章を読みはじめたときの理解がスムーズになります。

ただし、設問を先に見ておけば、本文は飛ばし読みしてOKとはなりません。「設問で問われている箇所だけ読めばわかる」というのは結果論的テクニックにすぎません。すべてを読んだからこそ設問で問われている箇所がどこかがわかるのです。

内容合致問題の場合は、選択肢を先に熟読しない

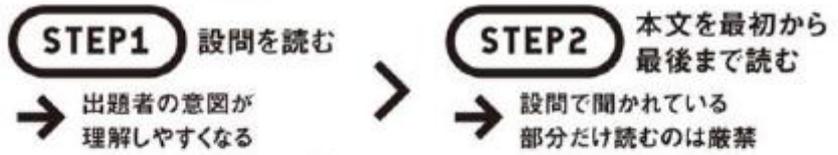
一方、長文問題の中の、内容合致問題の場合は、選択肢を先に熟読しないことです。内容合致問題とは、英語の長文問題を例にするなら、「次の A~G のうち、この作者の主張には○、そうでないものには×をつけなさい」というタイプの問題です。

これらのうち、多くは間違いです。ただ、間違っただけを先に読むとそれが先入観となり、次に本文を読むとき、誤った理解をしかねません。また、本文を読んだあともう一度間違いの選択肢を読むと、既視感から正解に見えてしまうこともあります。

もちろん、ざっと眺めるくらいは OK です。ざっと眺めることで本文の内容を推測できますし、解答もしやすくなります。ただし、熟読はしないようにしましょう。

出題パターンによって解き方を変えよう

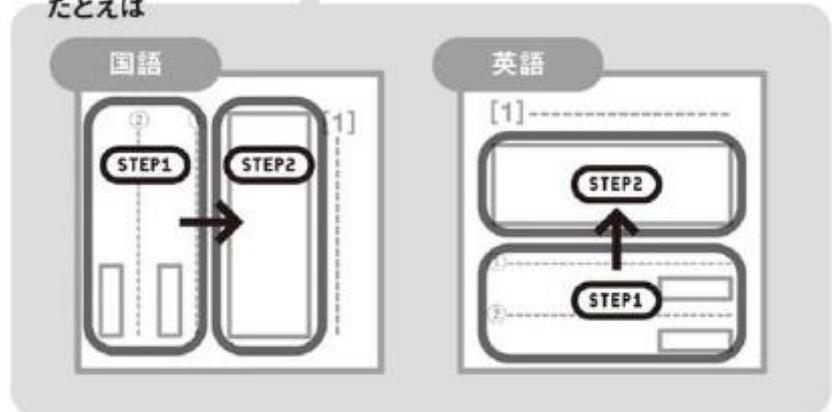
[読解問題の場合]



【Action!】

試験当日の「問題を解く手順」を準備段階でたたき込んでおくべし。

たとえば



[内容合致問題の場合]

